

## 教師教育研究において「ありのままをとらえる」とは — 「現象学的な質的研究」から研究倫理を考える—

本学会は、教師教育を対象とした学会であり、教師教育に携わる者（教育学部の教員、教職課程を担当する教員）や、教員経験を持ちながら、教師教育研究に取り組む研究者が多いという特徴があります。そのため、研究の観点や思考が自らの実践をベースに構成されていることが少なくありません。それらは、実践者ならではの視点を研究に持ち込み、実践に基づく研究を進めることができるという利点がある一方で、限定された自分の経験のみで研究を枠づけ、不適切なデータの解釈を行うなど、研究倫理上問題となる行為につながる可能性もあります。他方で、これら研究倫理上の問題を意識しすぎるがために、実践からの知見が全て排除されてしまうことは教師教育研究の形骸化につながるかもしれません。

このような問題意識に基づき、研究倫理委員会では、教師教育研究において「ありのままをとらえる」ことを研究倫理の視点から考えるための学習会を企画しました。

### 講師

村上靖彦氏 / 大阪大学 人間科学研究科 人間科学専攻 教授

講演テーマ 「語りを聴く研究の倫理」

村上氏は、現象学の立場から研究や実践における「倫理」を論究され、これまで、医療従事者、アイヌの人々、ヤングケアラー、西成地区の子どもや保護者など、個人の困難や、困難へのケアを対象として「現象学的な質的研究」という方法論で研究に取り組まれています。

『自閉症の現象学』（勁草書房、2008年）、『子どもたちがつくる町 大阪・西成の子育て支援』（世界思想社、2021年）、『「ヤングケアラー」とは誰か』（朝日新聞出版、2022年）、『客観性の落とし穴』（筑摩書房、2023年）など著書多数。



### 開催日時

2025年 3月 20日（木・祝）

16時00分～18時00分

### 実施方法

zoomによるオンライン学習会

<https://us02web.zoom.us/j/82102339959?pwd=d1tZR3wv4CswtDyMjdSmn9YcxbTlrN.1>

ミーティング ID: 821 0233 9959 パスコード: 198683

### 参加申込

事前申し込み不要

【挨拶・司会進行】 長谷川哲也（岐阜大学）

【コメンテーター】 瀧本知加（京都府立大学） 村井大介（静岡大学）

【総括・挨拶】 金馬国晴（横浜国立大学）

お問い合わせ先：[c\\_takimoto@kpu.ac.jp](mailto:c_takimoto@kpu.ac.jp)  
瀧本知加：京都府立大学・研究倫理委員会委員